

砂場の安全清潔保持には『INNERMILL砂場用抗菌剤』が効果的です。



砂場用抗菌剤の組成と作用は？

白濁色・無臭の抗菌防カビ剤です。

この抗菌剤(商品名INNERMILLが基材)は有機ハロゲン窒素化合物を主成分とする有機系の複合合成剤です。

細菌や真菌などの細胞膜を構成する酵素の働きを阻害することで微生物の繁殖を抑止します。

(財)食品分析センターで急性経口毒性、皮膚一次刺激性、変異原性、眼粘膜刺激性などについての安全性が確認されています。

砂場用抗菌剤の特性とは？

砂場用抗菌剤は、

細菌 69 菌、真菌 159 菌、藻類 25 菌の計 253 菌に対して強力な抑止力を持っています。



左側は「5リットル入り」ポリ容器



右側は「1リットル入り」ポリ容器

砂場用抗菌剤を約 200 倍に希釈し、1m² 当り約 15 リットル噴霧することにより表面より約 30cm のレベルまで抗菌効果が及びます。

底の部分の砂を攪拌しながら散布していただければさらに深く効果が及びます。

通常的环境下であれば大凡 2 年は効果が持続します。

雨が多い地域、動物の侵入が激しい地域は複数回、砂を入れ替えた場合は再度噴霧して下さい。



『インナーミル』砂場用抗菌剤は日本全国の公園、保育園(約 23,000)、幼稚園(約 14,000)の砂場に対して数千箇所に至る採用実績があります。

約 200 倍に希釈し砂場の上から一定量散布(噴霧)するだけで 2 年以上に亘って雑菌を抑止し続ける事の出来る(データのある)薬剤は『インナーミル砂場用抗菌剤』において他にないといえます。

砂場が高レベルに細菌のみならず真菌(カビ)で汚染されている事実がマスコミなどで話題になってからもう久しく経ちます。

そして砂場の大半が基本的な微生物対策が為されないまま管理されている現状の中で『インナーミル砂場用抗菌剤』を散布した砂場は着実に長期的な成果を上げています。

それらの実績には薬剤の高い『安全性』の裏付けが存在しています。

大腸菌による食中毒のみならずカビによる疾患＝真菌症の問題が次第に着目されつつある現代、そして何よりそれらを着実に抑止する事の出来る薬剤の皆無な中、『インナーミル砂場用抗菌剤』が指名・使用され、ノークレームであることがその証左だと思われます。

砂場用抗菌剤と他社薬剤との違いは？

他社銀系、有機系、光触媒などの薬剤の傾向として、『抗菌対象が少ない』、『カビに対してほとんど効力がない』、『多くの量を混入しないと効果が出ない』などの問題点がありますが、砂場用抗菌剤は対象菌種を選ばず、少量で安定して効果を出す優れた薬剤です。

名称	砂場用抗菌剤(有機系)	他社有機系防カビ剤	無機系薬剤
有効主成分	有機ハロゲン窒素化合物	ベイズイミダゾール	銀系等
かび抵抗力	建物から検出される 57 菌の内、 57 菌に有効	建物から検出される 57 菌の内、 27 菌に有効	効果 3 菌
藻(淡水)抵抗力	効果 25 藻	効果 0 藻	効果 0 藻
薬剤安定温度	-60℃～390℃	0℃～251℃	500℃以下
耐性菌	複合合成剤の為、 耐性菌が出来にくい	日本での使用期間が長いこと、 単独使用又は、1～2品混合の為、 耐性菌が出ているものがある。	-
薬 状	粉体系・水系・溶剤系・水分散系	粉体系・水系・溶剤系・水分散系	粉体系・水分散系
抗菌スペクトラム	254 菌	32 菌以下	10 菌
溶出度(水・温度)	3ppm	3,000ppm	なし
有効 pH	pH1～pH14	pH4～pH8.5	-
かび抵抗性試験	JIS 法・インナーミル法にて、 28 日間発生なし	JIS 法・インナーミル法にて、 いずれも 14 日間で発生あり	酸化還元により 失効が早い